

★講演会を開催しました！

●「-史跡指定50周年-ここまでわかった出雲国府！」

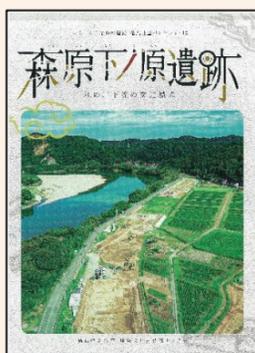
9月3日に、スティックビル（松江市）にて講演会を開催しました。会場には110名の聴講者が来場され、史跡出雲国府についての報告やパネルディスカッションなどを熱心に受講されました。当日の様子が島根県公式YouTubeチャンネル（しまねっこCH）で公開中です。



パンフレット紹介 シリーズしまねの遺跡パンフレット12『森原下ノ原遺跡』

●最新刊です！

シリーズ島根の遺跡では、埋文Cいちおしの遺跡を分かり易くまとめて紹介しています。今回は、江の川下流域最大級の拠点集落遺跡であることが判明した『森原下ノ原遺跡』を取り上げ、各時代にわたる重要な調査成果について解説しています。パンフレットは、埋文Cで無料配布しているほか、県内の図書館・文化財関係施設にも置いてありますので、ぜひご覧ください。



行ってみたいしまねの遺跡

あさくみ いわや

朝酌岩屋古墳 (松江市朝酌町)

朝酌川を望む丘陵の先端に位置する、大型の石棺式石室をもつ古墳です。古墳時代後期（6世紀後半）につくられたと考えられます。

石室は浮石凝灰岩（荒島石）製の精美な切石を使用しており、両側壁・天井石・床石は巨大な一枚石で構成されています。石と石が組み合う部分には片側に石を受けるための割り込みがみられるなど、非常に丁寧な作りをしています。

現地には看板も設置され、中に入ることもできますが、見学の際は隣接するお宅に声を掛けてから見学しましょう。



問い合わせ先：松江市埋蔵文化財調査課 0852-55-5284

石室奥から玄門を望む

わかりやすい！島根県の埋蔵文化財情報が満載！

島根県の埋蔵文化財情報誌

web版 No.2

ドキ土器

2023年春

まいぶん



火鉢

16世紀に造られた護岸跡(北西から)  
大橋川へと傾斜する砂層を保護するように積み上げられていました。

戦国時代の白潟の町に造られた護岸跡

まつえじょう かまち いせきしらかた

①松江城下町遺跡白潟2区 (松江市魚町・白潟本町)

調査区は大橋川の南岸、松江大橋南詰の西側に所在しています。発掘調査の結果、16世紀後半に造られた石積みの護岸跡が確認されました。当時白潟は船も往来する大きな町として国内外に知られていました。町は砂州と呼ばれる砂の上に造られていたため、大橋川へ地盤の砂が流出するのを防ぐ目的で石を積み上げたと考えられます。石積みの石材は直径90cmほどの自然石でほとんどは玄武岩でした。嫁が島やその周辺で採取した玄武岩を運搬して積み上げたようです。護岸跡周辺では輸入陶磁器のほか、土師器の皿や香炉、火鉢が大量に出土しています。香炉や火鉢のほとんどは破損した未使用品でした。壊れた商品を廃棄したものと思われる。



島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん  
web版 2023年春号

編集・発行

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 松江市打出町33

TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025

E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp

https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/

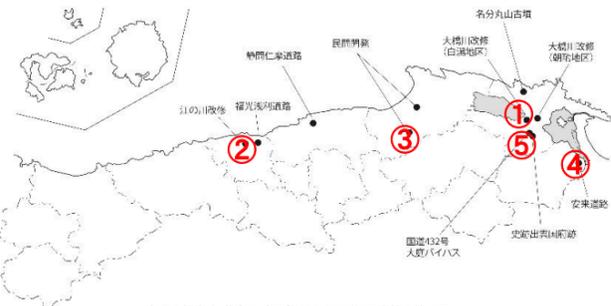
※遺跡位置図は国土地理院発行1/25,000地形図を使用



# 島根県の最新発掘情報

## 令和4年度

### 発掘調査ガイド



令和4年度 埋蔵文化財調査センター発掘調査箇所位置図

●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようにお願いします。

■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

#### 石見焼の製作工程があきらかに

ほんだ かま あと

### ②本田窯跡(江津市松川町)

本田窯跡は、江津市松川町太田地区に所在する、明治時代から昭和30年代まで操業した石見焼の生産遺跡です。

遺跡からは、連房式登り窯・複数の建物跡・水簸施設(粘土を精製する施設)・水路・物原(不良品や窯道具の捨て場)等の、石見焼生産に関連する一連の施設が見つかりました。

これまでの石見焼関連遺跡の調査では、連房式登り窯・建物跡・物原などが見つかった例は複数あります。しかし、水路・水簸施設などの粘土精製を行うための施設を良好な状態で確認することができたのは、県内の調査では今回が初めてです。これは、石見焼生産の過程を明らかにする中で、重要な発見であるといえます。



水簸施設



連房式登り窯



遺跡の位置



本田窯跡遠景

#### 古墳時代前期の古墳を発見!

おぼら いせき

### ③小原遺跡(雲南市掛合町)

小原遺跡は、標高416m~418mの丘陵尾根上に立地しています。本年度は古墳4基(小原1号墳~小原4号墳)の調査を行いました。このうち墳丘の全体を発掘した小原1号墳と2号墳では、古墳を区画するための溝や、埋葬施設が見つかりました。小原1号墳は、一辺10m程度の方墳で、尾根を削ったり、盛土により作られました。墳頂部からは、二段に掘り込まれた墓坑1基を検出しました。小原2号墳は、1号墳と同じく1辺10m程度の方墳です。墳頂部では2基の墓坑が重なり合った状態で検出され、2回の埋葬が行われたことがわかります。どちらの古墳も、出土した土器から古墳時代前期に築造されたことが判明しており、周辺地域の有力者の墓であったと推測されます。



小原遺跡完掘状況



遺跡の位置

#### 石室の構築過程を解明!

ごたんだいちごうふん

### ④五反田1号墳(安来市門生町)

五反田1号墳は今から30年ほど前に山陰道(安来道路)建設に先立ち発掘調査が行われています。4世紀後半に造られた30mほどの円墳で、この中には長さ4.8mもある竪穴式石室がありました。この石室は、調査後そのまま残されていましたが、安来道路のが4車線化されることから、石室の解体調査を行うこととなりました。

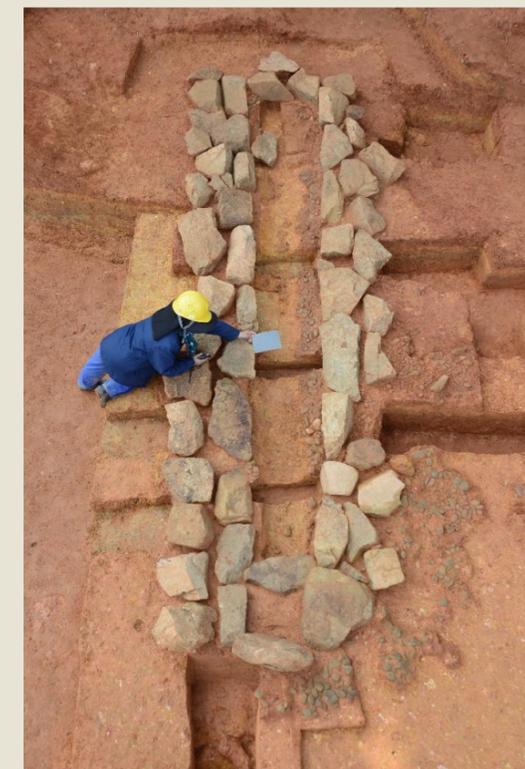
石室は、一人で抱えることのできない大きなものや、A4サイズほどの小さなものからなる250個ほどの石を積み上げて造られていました。石の積み方も、工程ごとに特徴があることなどが観察されています。こうした石室の構築方法は、そこで行われた儀式の景観を考えるヒントになります。石室外部には、西側のみ礫敷きがあることが分かり、この部分が儀礼を行う場所だったと見られます。



山陰道と五反田1号墳



遺跡の位置



再発掘された竪穴式石室

#### 着々と明らかになる政庁域の姿

しせき いずも こくふ あと

### ⑤史跡出雲国府跡(松江市大草町)

出雲国府は奈良時代から平安時代にかけて、出雲国の政治の中心地でした。今年度は政庁正殿の南側を発掘調査し、前殿や石敷き遺構を確認しました。前殿は梁行2間×桁行5間の規模と推定でき、少なくとも掘立柱建物の時期があることが確実となりました。前殿の解体後には、儀礼空間である前庭に広く石敷きを行い、立派に見えるように整備したことがわかりました。

今回の調査で、出雲国府政庁域の建物配置や変遷、儀礼を考える上で重要な情報を得ることができました。



遺跡の位置



石敷き遺構の検出状況



前殿の柱穴掘削調査の様子